

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891500021
法人名	医療法人 中野クリニック
事業所名	グループ・ホーム アンダンテ
所在地	東温市志津川1578-1
自己評価作成日	平成23年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・協力医療機関と隣接しており、利用者の重度化や終末期に対応できるように医療体制が確保されている。利用者や家族の意向に沿ったターミナルまでの対応を行なっている。日々の健康面でも看護師があり、相談が密に出来る。</p> <p>・残存能力を維持できるよう、日々の体操・クラブ活動を取り入れたり、出来る力の発揮や趣味・歩行練習等を行ったりして、一人一人に応じた豊かな生活の実現に努めている。</p> <p>・地域の方々との交流を大切に、三味線や舞踊・音楽のボランティアの方々に来てもらったり、季節ごとの行事を実施したりして利用者の方に大変喜ばれている。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年10月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所の玄関前のベンチで利用者が日向ぼっこしていると、近所の方が話しかけてくださるようなことも多い。職員は、事業所主催の納涼祭や花火大会時には、近所の方を個別に訪問して、案内された。事業所では、子ども達が楽しめるように、スーパーボールすくいやポップコーン等の出店を出したり、みなで職員手作りの料理をバイキング形式で楽しまれた。車いすを使用されている利用者も、ご家族や地域の方と一緒にすいか割りを楽しむ等して交流された。</p> <p>終末期の過ごし方については、ご家族と話し合いを重ねて支援されており、最近では、利用者からも馴染みの「ホームで最期まで過ごしたい」との希望もあって、事業所で看取りを支援された事例がある。ご家族も数日間、事業所に泊まり付き添われ、他の利用者もご本人に声をかける等された。職員はご本人のこれまでの暮らしぶり等を踏まえて「口から食べること」「お風呂を楽しむこと」等、最期までご本人らしく、ご本人が心地よく過ごせるような支援に努められた。ご家族からは「本当によくしてくださった」との言葉をいただいた。後日、「ターミナルケアの勉強会」を開き、実際に行った支援について話し合い、職員間のさらなる意識統一を図り、今後の支援につなげていけるよう取り組まれている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループ・ホーム アンダンテ

(ユニット名) 東ウイング

記入者(管理者)

氏名 大栄 由佳

評価完了日 平成 23 年 9 月 15 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 常に理念を意識し自覚化を図るため、玄関や事務所内・施設内の見やすい場所に理念を掲示し、職員間で共通理解し、理念の実現に向けて日々積極的に実践している。 (外部評価) 事業所理念に「優しく笑顔のある生活」「安心して、ゆとりのある生活」「個々が役割を持ち、その人らしい生活」と掲げて、事業所は、パステル画や生け花等のクラブ活動にも力を入れて取り組んでおられる。さらに、今年4月、法人の介護施設が新設されたことを機に、「幸せをお届けします」と、法人全体の理念を作成された。理念は、玄関、事務所に掲示され、又、朝の申し送りや職員会時には、理念に沿いながら日々のケアを振り返るようにされている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事への参加や地域の商店への買い物、また、地域ボランティアとの交流等、地域の方々との交流を深めている。夏祭りには、毎年、ご家族様や地域の方等、沢山の方々を招待し楽しませている。理事・施設長が地域住民であり、町内活動の役員として地域と様々な形で交流している。 (外部評価) 事業所の玄関前のベンチで利用者が日向ぼっこしていると、近所の方が話しかけてくださるようなことも多い。職員は、事業所主催の納涼祭や花火大会時には、近所の方を個別に訪問して、案内された。事業所では、子ども達が楽しめるように、スーパーボールすくいやポップコーン等の出店を出したり、みなで職員手作りの料理をバイキング形式で楽しまれた。車いすを使用されている利用者も、ご家族や地域の方と一緒にすいか割りを楽しむ等して交流された。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営者が認知症の専門医であり、地域住民の要請に応じてアドバイスをしている。広報誌等でも、事業所の力を生かした相談等、実施について啓発している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) ご家族様・地域の方・市福祉関係者等、多様なメンバーで構成している。利用者様の生活・健康状況、行事や取り組み状況を報告している。意見交換を通し、サービスの質の向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 会議には、利用者やご家族、地域の方や地域包括支援センターの担当者の方が参加して下さっており、2ヶ月ごとに会議を開催されている。会議時、地域ボランティアの方から、「事業所で折り紙教室を行ってはどうか」と提案があり、2月には、ボランティアの方の協力を得て、利用者はひな人形を作って飾り付けをされた。その後の会議で、折り紙教室の報告を行い、メンバーからの「折り紙は指先を使うから利用者にもいいのでは」等の意見等も得て、折り紙教室を定期的に行うことを計画されていた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 包括センター訪問、介護相談員の来所・訪問、運営推進会議や地域における介護ネットにて情報交換をし、指導・助言をサービスの質の向上に繋げるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 市主催の介護事業所が集まる「介護ネット」に参加されて、他事業所と交流されたり、情報交換を行い、事業所のケアに採り入れておられる。運営推進会議には、地域包括支援センターの担当者が参加して下さり、ケアの実際や避難訓練をみていただきながら、アドバイス等をいただいている。「利用者の普段の様子をご家族に、さらに知ってもらうためにアルバムを作ってはどうか」とセンターの方から提案があり、事業所では利用者個々にアルバムを作ってお家族の来訪時に見てもらえるようにされていた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束についてのマニュアルや勉強会等を通して、全職員が身体拘束について正しく理解し、常に一人一人の利用者様について身体拘束をしていないか検討しあっている。見守りを十分に行うよう努め、施錠はしていない。</p> <p>(外部評価) 事業所の共同生活の中では、利用者同士のトラブル等もあるが、職員は、利用者の気持ちや行動を抑えるのではなく、利用者の気をそらせたり、紛らせる等しながら対応を工夫されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会等を通して、職員全体が虐待について正しく理解し、根絶に万全を期している。カンファレンス等で、利用者様の日常生活の様子を職員全員で共有し、一人一人を大切に、虐待の発生しない環境作りに努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度について学ぶ機会を持ち、必要性が発生した場合、適切に活用していきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、利用に際してのサービス提供の内容・権利・義務等を、契約書や重要事項説明書に基づき説明し、分かりやすく具体的に契約をしている。改定等については、迅速・丁寧に連絡・説明し、理解をいただいている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様とはコミュニケーションや極め細かな観察により、思いや願いの実現に努めている。家族会を実施し、運営については忌憚のない意見をいただき、運営改善に役立てている。苦情相談窓口・意見箱等により、ご家族の要望や意見の収集をしている。結果は運営会や広報誌等で報告している。 (外部評価) ご家族の来訪時にケアへの要望をお聞きしたり、遠方にお住まいのご家族には、電話で聞き取るようにされている。管理者が交替された際には、事業所便りや運営推進会議にて報告をされた。運営推進会議時、メンバーから「家族会」の開催を提案していただいたことをきっかけに、事業所では、行事等と合わせて家族会を開催されている。ご家族同士で話すような機会ができたことで、ご家族同士の親睦が深まってきたようだ。	ご家族は「お世話になっているから言いにくい」というような心情を持っておられることも多く、今後さらに、ご家族が意見や要望を出しやすいような工夫を重ねていかれることが期待される。たとえば、評価結果や家族アンケートの結果等も用いて、ご家族が「事業所に期待していること」についても探っていかれたり、事業所のサービスについて、具体的に話し合えるような工夫等をされてみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 東西ウイング会、職員会、業務改善委員会での意見や提案を運営に反映している。個人面接で提案や意見を聴取し、改善に生かしている。日々の申し送りに管理者が出席し、意見や提案が出しやすい環境にしている。	
			(外部評価) 職員の気付きやアイデア等は、両ユニット合同の職員会で話し合い、ケアに採り入れておられる。職員は「環境・美化、行事・企画、園芸、ケア、食事」等に所属して、個々が得意なことを発揮しながら活動されており、職員同士がサポートし合って取り組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員は個々に個別目標を作成し、定期的な自己評価を行うことでステップアップを図っている。代表者は職員の自己評価と面談等により、職員一人一人の状況を把握し、条件等の整備に努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に1度の勉強会をはじめ、外部研修については職員一人一人の力量に合った研修会参加を進めている。また、資格の取得を奨励している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域介護ネットに参加し、近隣施設との連携・交流を深め、勉強会や意見交換会を行なっている。当施設を利用する会合・研修会など、積極的に受け入れている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に事前面談を行ったり、本人が既に関わっている施設等から情報を得ることに努め、本人の希望や要望を聞き取り、安心して生活出来るように配慮している。アセスメントシートの活用で、職員全員が事前に情報を共有している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事前の相談及び契約説明時に、利用者様の生活歴・現況等の正確な情報把握に努めるとともに、不安な事・要望についても話し合い、ご家族が十分理解・納得された上での契約を結んでいる。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護方針・内容について職員が共通理解して対応するとともに、特に初期は適切さについてスモールステップで見直し、改善するという極め細かなサービス提供に努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>グループホームの理念の現実を目指し、安心して仲良く楽しくつくる場、共に生活する場作りに努めている。日常の手伝い等を通し、それぞれの得意分野を活かして生活して頂いている。また、感謝や尊敬の意を伝え、支え合える関係作りに努めている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族の来訪時や日頃の電話連絡にて、本人の状況を報告し日常生活の様子を理解して頂いている。家族会や施設行事等は、家族との意見交換や、信頼を深める機会としている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族や親族・友人の訪問が多い。来訪者が、ゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。ドライブ等で、本人が馴染んできた地域の施設や季節の自然に触れるよう出掛けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご自分の携帯電話で、ご家族や昔馴染みの友人に電話される方もいる。ご家族とお墓参りに出かけ、お食事をすませて帰るような方もいる。入居前、隻手薬師をお参りすることが習慣となっていた利用者とは、入居後も職員とお参りを続けておられ、最近では、他の利用者も一緒にお参りに出かけるようになられたようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 相性を把握し、職員が仲立ちとなって会話やレクリエーション等を通して関わり合いのもてるよう努めている。孤立してしまいがちな方には、職員から働きかけ輪に入れるよう支援している。パステル画や生け花等、グループ活動への参加を勧め、共に楽しむようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) いつでも、事業所への訪問や連絡の頂けるような関係作りに努めている。退所された方のご家族様も、他の利用者や職員を訪問することもある。依頼があれば、相談や情報提供も行なっている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々、会話や表情の中から、思いや暮らし方の希望を汲み取り、支援の個別化に繋げている。特に困難な方には、ご家族様との話し合い、職員間の情報交換を密にして、本人に応じたサービス提供を工夫している。	
			(外部評価) 入居間もないころに言動が激しくなる利用者がおられたが、職員は、利用者の表情や様子を観察して、「何が嫌なのか・どうしたいのか」と利用者の視点で考えながら支援に取り組まれた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時、既に利用した施設や利用者様やご家族様より情報収集をし、アセスメントを行い職員全体で共有している。馴染みの環境を把握し、本施設での生活においてもできることは工夫して、安心した生活が送れるよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その日の心身状態に合わせて対応しており、現状理解や有する力を把握して、残存機能が有効に活用できるよう申し送りやウイング会で適切な支援の方法を話し合い、実践に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人の思いや願い、心身現況についての的確な把握に努めるとともに、ご家族様と話し合って作成するようにしている。随時、ケアカンファレンス等を行い現状にあった介護計画となるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 毎月モニタリングを行い、介護計画を3ヶ月ごとに見直しておられる。落ち着かない状態の利用者については、モニタリングを細やかにを行い、介護計画を毎月見直す等して取り組まれている。さらに、利用者の得意なことを続けられるような支援や嗜好品を楽しむことを続けられるような支援等も、計画を立てて取り組まれている。今後、さらに、ご家族もともに利用者を支えられるよう、ご家族からのケアへの希望や要望を引き出して計画に反映していかれてほしい。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別記録の書き方については研修を行い、介護計画・実践に活かせるよう努めている。細かな情報は、申し送りノート等を活用し職員全体で共有できるようにしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人やご家族様のニーズはできる限り受け入れ、個々に応じたサービス提供に努め、安心できるよう配慮している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域ボランティアの協力により、踊りや演奏会等の憩いの時間を過ごすことができている。毎月実施している、生け花やパステル画等では、利用者様の持っている力を発揮し、生きがいや楽しみとなるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体となるクリニックでの受診を行なっているが、必要時には他の専門医療機関への受診を紹介している。また、本人やご家族様が希望する入所前からのかかりつけ医への通院に付き添っている。	
			(外部評価) 母体クリニックが24時間対応してくれるようになってきている。院長が週1回往診されており、その他にも週に1度は事業所で利用者と昼食をともにされたり、日々立ち寄りすることで、体調の変化を見逃さないよう取り組んでおられる。皮膚科、歯科等の専門医は、利用者、ご家族の希望に応じて受診されている。利用者の受診に付き添うご家族もともに送り迎えされることもある。家族の同行が難しい場合には職員がお連れして、後で家族に報告されるようにしている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者様の健康・服薬状態、体の状況等について看護師に相談・報告し、医師の指示にて受診や処置等の適切な看護が受けられるよう支援している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院の際は介護面・医療面の情報を速やかに提供している。職員の見舞いは瀕回にし、ご家族様と情報交換しながら、退院後の生活が適切に行えるよう支援している。日頃から医師間で情報交換をしネットワーク作りに努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化にかかる指針を作成しており、家族に説明を行なっている。終末期には段階的にターミナルケアについて、ご家族様等と丁寧に話し合い、職員共通理解のもと、医師・看護師と連携して取り組んでいる。	
			(外部評価) 終末期の過ごし方については、ご家族と話し合いを重ねて支援されており、最近では、利用者からも馴染みの「ホームで最期まで過ごしたい」との希望もあって、事業所で看取りを支援された事例がある。ご家族も数日間、事業所に泊まり付き添われ、他の利用者もご本人に声をかける等された。職員はご本人のこれまでの暮らしぶり等を踏まえて「口から食べること」「お風呂を楽しむこと」等、最期までご本人らしく、ご本人が心地よく過ごせるような支援に努められた。ご家族からは「本当によくしてくださった」との言葉をいただいた。後日、「ターミナルケアの勉強会」を開き、実際に行った支援について話し合い、職員間のさらなる意識統一を図り、今後の支援につなげていけるよう取り組まれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時のマニュアルを作成しており、職員が周知している。また、看護師や医師の指導を受けシミュレーションや訓練等で、実践力の向上に努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、利用者様と共に火災や地震を想定した避難誘導訓練を行なっている。近隣の方々にも案内し、訓練に参加して頂いている。消防署員が立会って実施しており、適切なアドバイスを頂き、対策に万全を期すよう努めている。	さらに、災害時に事業所が「地域にできること」等を話し合われたり、いざという時の地域との相互協力体制についても事業所のネットワークを活かして、今後さらに体制整備に取り組んでいかれてほしい。
			(外部評価) 年2回の消防署立会の避難訓練時は、地域の方も一緒に訓練できるよう案内された。さらに、今年度は、ユニットごとに利用者、職員で自主防災訓練を実施されており、ユニットごとに出火場所や時間を変えて行い、課題等についても明らかにして次につながるよう取り組まれている。2つのユニットの中央にレクレーションルームが設置されており、レクレーションルームはドアを閉めると一時的な避難スペースとなっている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様は人生の大先輩であることを認識し、人格の尊重や尊敬の念を持つよう共通理解を図っている。日々の生活でプライバシーが守れているか常に見抜く目を持ち、検討して人権や生活の保障に努めている。	
			(外部評価) 職員は利用者への言葉かけについて「馴れ合いにならない」ことに気を付けて取り組んでおられる。調査訪問時、トイレ誘導時には、職員は利用者の耳もとで声をかけておられたり、利用者に視線を合わせて「～さん」と笑顔で話しかけておられる様子が見られた。浴室は、透明ガラスの引き戸にステンドグラス風の目隠しシートを貼って、プライバシーに配慮されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) いつでも何でも言える親和的・家庭的環境作りに努めている。利用者様の思いや願いを知ることにも努め、丁寧に寄り、相談支援して自身が選択・自己決定できるよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様の意見を聞きながら、日々の活動ができる限り一人一人の希望に添えるよう支援している。全てにゆったりと落ち着いて生活できるよう気をつけている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に訪問理美容サ - ビスを利用して、利用者様の希望に応じたカットや毛染め等をしている。着替えの際には洋服の選択をして頂いたり、身だしなみを意識できるような声かけを行なっている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 可能な利用者様は、調理・下膳・片付け等を一緒に行っている。施設で収穫した旬の食材を取り入れ、食への意欲を引き出せるよう努めている。食事は会話をしながら、楽しく摂っている。 (外部評価) 献立は、食事担当者2名が利用者の希望を聞きながら、1週間ごとに立てておられる。肉や魚は、地元の専門店に注文して、新鮮なものを届けてもらい、その他の食材は、事業所の畑で収穫した野菜や職員が毎日近隣のスーパーで食材を選び調理されている。調査訪問時には、ご家族からいただいたいちじくがデザートに出されていた。食事前には口腔体操をされたり、利用者が掲示されているメニューを読み上げて、他の利用者に教えてあげている様子もみられた。お若いころ調理の仕事がされていた男性利用者が、ごぼうのささがきや野菜の千切りをしてくださることもある。「この里いもおいしいから食べて。」と職員や利用者で感想等も話しながら食事をされていた。利用者をご自分の力で食べられるように、食材を一口サイズに切ったり、刻む等されていた。利用者の体形や姿勢に応じて、クッションを使用したり、足元に発砲スチロールのブロックを置いて、安定した体制で食事ができるよう工夫されていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、食事量をチェックするとともに、水分摂取に配慮や介助を要する方は、不足しないよう水分摂取量に気を付けるとともに栄養のバランスや量や体重、排泄などにも配慮しながら支援している。メニューや食事形態については、一人一人の状態に応じたものを工夫し、提供している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛けと必要に応じ介助を実施している。就寝前の口腔ケアでは義歯に洗剤剤を利用し、対応している。一人一人の口腔内の状態を把握し、その方に合ったケア用品を使用して清潔の保持に努めている。嘱託歯科医に指導・助言を頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表の使用等で、一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけを行なっている。自分でできるところまではして頂き、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 職員は、排泄チェック表をみながら利用者に声かけする等して、トイレに誘導されている。又、ご本人の表情や行動をみながら、声をかけられたり、「トイレに行くのがめんどろ」と言われる利用者には「手を洗いにいきましょう」と、トイレに行くきっかけを作る等して工夫されている。入居時や退院時に、おむつを使用しているような利用者も、状態をみながら自立に向けた支援ができるよう取り組んでおられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便を記録し、利用者様の排泄パターンを確認している。牛乳や水分の摂取等、一人一人に合った対応を行っている。また、散歩や体操、腹部のマッサージを行う等、個々に応じて対応している。それでも便秘がちな方については、看護師・嘱託医に相談し、内服薬で対応することもある。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人の心身の状況に合った方法により、安全な入浴ができるよう努めている。入浴後には、希望に応じた保湿剤等を使用している。希望の入浴回数・時間を配慮し、快適な入浴となるよう支援している。	
			(外部評価) 職員が見守り、利用者が一人で入浴される場合は、ご自宅での入浴の習慣に合わせて夕方入浴されている。冬至にはゆず湯を楽しまれており、利用者は「自宅でもやりよったよ」と、懐かしがられ喜ばれるようだ。浴室の壁面は檜を使用されていて、自然な香りの中、入浴できるようになっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の生活習慣や体調に合わせ、日中でも休息の時間をとって頂いている。夜間心地よく休めるよう、アロマ・室温や明るさなど室内調整を行ったり、日中は適度な運動や散歩・レクリエーションを取り入れ、心身の活性化を図っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬の情報はファイル化しており、いつでも職員が確認し把握できるようになっている。薬は職員が手渡しか、口腔内に服薬するように支援し飲み込みまで確認している。内服薬が変更になった場合は、特に症状の変化の確認に努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 趣味や得意分野を把握し、一人一人に合った活動ができる環境作りをしている。掃除・調理・洗濯等の手伝いにより、役割を持って生活して頂いている。また、散歩やドライブ等で気分転換を図ったり楽しみのある場面作りを提供している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に利用者様の気分や体調を伺いながら、散歩やドライブ等の支援を行っている。地域の祭や行事・観劇等にも出かける機会を設けている。また、ご家族様にも協力して頂き、自宅に戻り馴染みの方々との交流を図ったりしている。 (外部評価) お花がお好きな利用者が多く、季節に応じて、菊花展、七折れ梅祭り、菜の花まつり、あじさい、しょうぶ等を見に出かけておられる。市内の産直市には、月に数回出かけ、利用者もお好きなおやつ等を買ったりされている。歌が好きな利用者の方とカラオケに出かけたり、麺類がお好きな利用者とは近々外食する予定もある。外出支援については、ご家族の要望等もお聞きしながら、今後も支援に工夫を重ねていかれてほしい。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が出来る方については所持していただき、必要に応じて使って頂いている。利用者様の要望に合わせ買い物をしてもらい、本人が支払いをしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持ち、毎日、ご家族様と話をされている利用者様もいる。また、手紙のやり取りの際には、投函の依頼があればお受けしている。夏には暑中見舞いのハガキ作りを手伝い、投函している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者が集まる食堂や玄関には、季節に応じた生花や観葉植物、手作りの飾り物等を配置している。採光・空調・換気等、工夫された設計である。灯りやエアコンの調整をこまめに行なったり、トイレや各居室に案内の表札をつけたりして不快や混乱のないよう工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所は、田畑に囲まれ、窓からは季節の移り変わりが眺められる。居間はガラス張りの吹き抜けで、自然の光が入り明るく開放感がある。ご自宅で行っておられたように、毎朝カーテンを開け、夜には閉めてくださる利用者もいる。レクリエーションルームには、利用者がクラブ活動時、貼り絵等で作った畳1畳ほどの桜の木の大作も展示されていた。事業所前の敷地で、ボール遊びをする子ども達もあり、又、通りがかりに元気にあいさつしてくれる子どももいて、利用者はとても喜ばれるようだ。職員が利用者の動きをみたり、意見を聞きながら、状態に応じて浴室やトイレの手すりを設置されている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用空間は憩いの場としてスペースを広く確保し、利用者様同士で会話等ができるよう、テーブルや椅子・ソファの配置を工夫し支援している。また、玄関先にはベンチを設け、自然に触れて心地よく過ごせるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>家族の写真や手作りの飾り物、今まで使ってきた家具やテレビ、冷蔵庫を配置など柔軟に対応し、その人らしく安心して過ごせるよう配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の入り口には、利用者個々に写真と名前をあげておられる。居室の腰壁にも檜を使用しておられ、香りを楽しめる造りであるが、時にはラベンダーやブレンドオイルのアロマも焚く等されており、利用者は「気持ち落ち着いてええよ」と感想を話してくださった。窓際の飾り棚とデスクを兼用できるシステム家具には、クラブ活動で生けたお花を飾る方やお仏壇や遺影を置いておられ、仏壇に供える水やご飯は、利用者が以前から行っていた通りに続けられるよう、職員がサポートされている。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>各居室やトイレ等が間違わないように、目の高さに表札をつけわかりやすくしている。危険のないよう、廊下等には手すりを設けたり、障害物等がないよう整理されている。安全には細心の注意を払い、事故防止に万全を期している。</p>	